

2010年度

人権作品集



（「人権」に関するポスター（図画）選定作品 小学生の部 1年生）



（「人権」に関するポスター（図画）選定作品 中学生の部 2年生）

はじめに

名張市・名張市教育委員会では、日常の家庭生活、学校生活、社会生活などでの体験を通して、人権を守ることの重要性や、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすための意見を市民のみならずから募集しています。

本年度も、小・中学校の児童生徒をはじめ、高校生・一般のみなさんから、「人権」に関する作文・標語・ポスター（図画）・フォト（写真）を合わせて六四三点もの応募をいただきました。

全体を通して見てみると、自分たちの身近な問題や、さまざまな体験を通して、人権の大切さをとらえ、自分たちの生活の中で差別をなくしていく行動に移していこうとする気持ちが見られています。日ごろの学校、地域等での人権・同和教育の取り組みの成果だと喜んでいきます。

この作品集には、応募いただいた作品の中から、作文二点、標語一八点、フォト（写真）三点を掲載しました。

作文・標語は、様々な学習や日ごろの自分自身の体験を通して、差別の現実に触れ、その中から差別をなくすために、自分の問題として自分がどう行動すべきかなどが率直に表現されているものが多く見られました。

なお、ポスター（図画）については、二作品を啓発用のポスター及びティッシュとして活用し、標語については、二作品を啓発用ティッシュに活用します。

この作品集を通して、人権について考えていただいたり、差別に対する見方や考え方などを知っていただくとともに、さまざまな学習の場でご活用いただき、人権意識の高揚と人権・同和教育の一日も早い解決に向けて、一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、作文・標語・ポスター（図画）・フォト（写真）の応募にご協力をいただきました皆様方に対し、厚くお礼申し上げます。

目次
作文

小学生の部

みんな、なかよし	(一年生)	4
みんながにぎやかに なれる教しつ	(二年生)	5
いっぱい考えたこと	(三年生)	6
心のトゲをぬく	(四年生)	8
ふわふわの心でいる ために	(五年生)	9
ぼく達にできること	(五年生)	10
まほうの言葉	(五年生)	12
嬉しかったあの日 あの時あのしゅん 間	(六年生)	13

中学生の部

みんな、なかよし

(小学一年生)

このまえ、ともだちみんなで「だるまさんがころんだ」をやっていました。じゃんけんでまけたAちゃんが、おにでした。「さいしよのだいっば」って、みんなでたのしくあそんでいたのに、とちゅうで、けんかになったんです。「だるまさんがころんだ」っていったら、Aちゃんが、はなれていったんです。「なんではなれたの。」って、わたしが、ききました。そしたら、「Bくんが、ずるをしたから。」といいました。Aちゃんが、「ストップ」といったのに、Bくんが、とまらないでさきのほうにいったんです。それで、Aちゃんは、すぐおこりました。わたしは、「ストップ」といつてもとまらなかったBくんは、ずるいとおもいました。おにになっていくAちゃんが、かわいそうとおもいました。けれどもAちゃんが、きゅうにやめてはなれていってしまうのもいけないとおもいます。Aちゃんは、じゃんけんにまけておにになっているのに、きゅうになくなってしまうから、「だるまさんがころんだ」ができなくなってしまうです。

ずるをしたBくんもわるいけど、おにのAちゃんが、おこってやめてしまうのもいけないとおもいます。それでけんかになったので

わたしが、おにになりました。なぜかという、いつまでもけんかをしていても、たのしくないとおもったからです。みんなであそぶときは、ずるいことをしたらみんないやなきもちになります。おこってしまうって、よそにいつてしまうのもいけないとおもいます。みんなもいやなきもちになるとおもいます。みんなでたのしくあそぶときはずるいことをしたり、いやなことがあってもわがママをしてじぶんかっつてになったらいけないあとおもいました。



みんながにぎやかにされる教しつ

(小学二年生)

わたしの学校はにんずうがすくないです。でもわたしには友だちがたくさんいます。クラスには、ちよつとふざけたりしている子もいるけど、本とうはみんなやさしい気持ちをもっていて、みんな大すぎです。

前に、わたしがおちこんでいるとき、

「どうしたん？」

「だれかにいじめられたん？」

と、友だちが聞いてくれました。わたしは、おに「つこのおにをきめるとき、いつもおににされていやでした。それを言うと、わたしをおににしていた子に言うてくれました。そしたらその子が、

「ごめん。」

と、言うてくれてうれしかったです。

わたしは、友だちのつくりかたがわかりました。それは、じぶんから話していくことと、じぶんがやさしい気持ちをもつことです。やさしい気持ちになったら、友だちはいっぱいふえてきて毎日が楽しくなるから、それが学校にきてからの楽しみです。

ふわふわことばがあつまって、教しつがクラスのめあての「みんなだのしくにこにこスマイル」になって、とてもうれしいです。友だちがふえると、わたしもその友だちもうれしくなるから、友だちがわらうとどんだんかよしになっていくような気がして、わた

しもわくわくしてきます。だからわたしもいっしょになってわらいます。わらったら、ふわふわことばが出てくる気がします。

ふわふわことばの木がだんだん大きくなってきたのがすごいなあと思います。あそぶときに、

「いっしょにあそぼう。」

「いいよ。」

「なにがしたい？」

と聞いたり、絵をかいているときに、

「うまいなあ。」

「絵のぐかしたるか？」

と、言うたり、みんなふわふわことばをいっばい言うてるから、この教しつはふわふわことばの教しつだなと思いました。

ふわふわことばを言うと、みんなの気持ちもふわふわになります。だからふわふわことばは、まほうのことばです。まほうみたいに、みんなの気持ちもやさしくなつてえがおになります。みんながえがおになればクラスのめあてにもなるし、じぶんがふわふわになつて、うれしい気持ちになります。ふわふわことばがあつまって、教しつがうれしい気持ちで、にぎやかになつたらいいなと思います。ひとりぼっちだつたらなにも楽しくないけど、やさしい気持ちになつたら友だちはいっぱいふえるから、わたしはふわふわことばをたくさん言いたいです。



いっぱい考えたこと

(小学三年生)

きゆう食の時に習い事の話をしていました。お兄ちゃんがサツカを習っていた事をわたしが言ったら、Aくんは「できるわけないやろ。」と言われました。

わたしのお兄ちゃんは、足が悪くてあまり速く走れません。だからそういう事を言っただんたと思います。

でも、お兄ちゃんはできていたので、「できてたで。」とわたしは言いました。

その時、Aくんはお兄ちゃんの事を何にも知らんのとわたしは思いました。バカにされて、とつてもくやしかったです。だから、「お兄ちゃんはできてた。」といっぱい言い返しました。

わたしはママから「あまり気にせんとき。」と、言われていました。だから、たんじんの先生に言った方がいいのか、言わない方がいいのかわかりませんでした。いつもは、先生に言わない時もあったけど、その時がまんできなくて、また同じことを言われるのがいやだったので、先生に言いました。先生は、「お兄ちゃんをまもってんなあ。」と言ってくれました。うれしいのか、くやしいのかわからないけど、ないてしまいました。

それで、先生がみんなにお話してくれました。お兄ちゃんの先生も来てお話してくれました。お兄ちゃんにとって歩くことは、みんながさか立ちをして歩くのと同じくらいに大へんなこと、リハビリが大へんでも歩くれん習をやめずにつづけていることを話してくれました。みんながわかってくれるといいなと思いました。先生がそういうことをわかってくれていたり、わたしが言いたかったことを言ってくれたりしたのでうれしかったです。それに、みんながしずかに聞いてくれました。

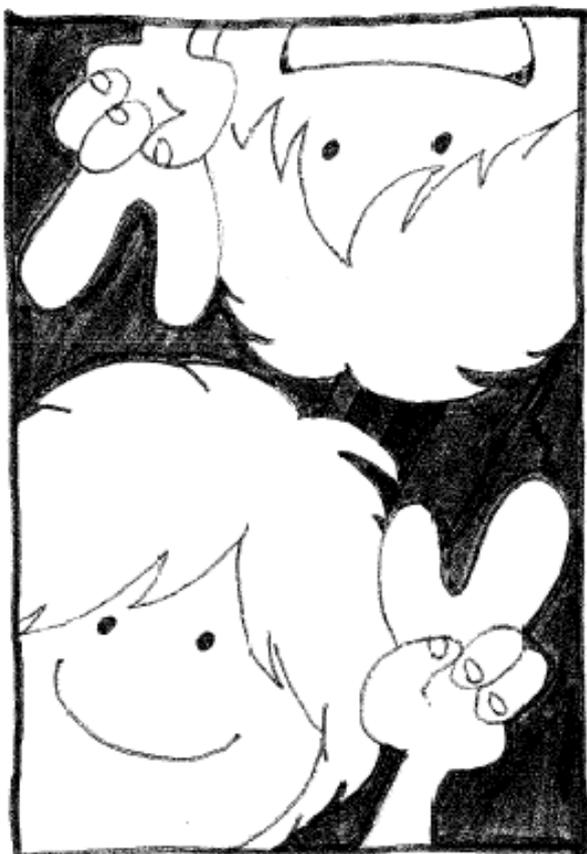
Aくんは、一年生の時からお兄ちゃんをバカにしたり、からかったりしていました。でも、今回話し合ったらやらなくなりました。よかったです。

今、お兄ちゃんは足を手じゅつして、入院しています。お見まいに行くと、いろんな病気の子がいます。病気でせがひくい子や、うでや足に金具をつけてちりょうをしている子たちがいます。

ママやお兄ちゃんからせがひくい子がいることなどを聞いていました。でもさいしょ見かけた時はびっくりしました。何オぐらいなんやろうと思いました。うでに金具をつけている子に会った時は、重たくないのかな、だいたいぶなのかと思いました。

その病気の女の人の話が新聞にのっていたので、ママに読んでもらいました。学校でせがひくいことのでいじめられていたそうです。

大人で百二十六cmだと書いてありました。大人でわたしよりひくいとわかってびっくりしました。小学生の時にはみんなからじろじろ見られて悪口も言われて、いやな思いをしたと書いてありました。高校の時の遠足でどのグル「プ」にも入れてもらえなくて、高校をやめてしまったそうです。でも、本当はやめたくなかったと思います。その人は、自分のことをもっとわかってほしかったんだと思います。お兄ちゃんもお買い物などに行くと、車いすに乗っていても、その具をしていても、じろじろ見られます。わざわざお兄ちゃんの前まで、見に来る人もいます。わたしは、すごくいやです。でも、お兄ちゃんは「気にしていない」と言っていました。すごいなあと思いました。お兄ちゃんはあるんまり速く走れないけど、お兄ちゃんの心は強いと思います。お兄ちゃんのそういうところが好きです。お兄ちゃんや病院のお友だちや新聞にのっていた女の人たちを病気を理由にして、悪口を言ったり、なかま外しにしたりするのはいやです。だから、相手のことをもっとわかっていたら、そういうことがなくなると思います。それに、みんながなかよくなれると思います。



心のトゲをぬく

(小学四年生)

ぼくはある子に対して、何もなしのじゅっかいを出してしまっていました。

「一、二年生の時は、めがねをかけているだけでいじめてしまいました。かげでその子のこと」

「いじめだよ。」

と言っていました。

遊んでいる時、その子が、

「入れ。」

と言っても来ても、

「ええっ。」

と言ってしまったこともありません。そんな時その子は、それ以上何も言わずあきらめたように一人でその場所からはなれて行きました。おもしろ半分だったぼくは、その子の気持ちを考えることはできませんでした。

そして、最近までそれは続いていました。「の前サッカ」をしていた時、その子もいっしょのチームでした。ボールを相手にとられたり、相手のボールをとれなかったりする「

」なにしてんねん。」

と言っていました。何をやる時も、えらそうにしてしまっていた気がします。その子に対して上から見ていたのかもしれない。

そんな時、合田先生から話を聞きました。けいかんきといっはたの写真を黒板にはって、そのはたの意味を教えてくださいました。そしてその後、「

のトゲの話をしてくれました。人をきずつけたらトゲができて、そのトゲをぬくのは、周りの人に思い切ってそのことを話すことだと教えてくれました。

その後、自分が五年生の時に友だちをきずつけた時の話をしてくれました。他の子たちに、

「あの子きもち悪いぞ。」

と言われて、いっしょに帰る約束をしていたその友だちを放って、悪口を言った子たちと帰ったそうです。

その話を聞いていて、「ぼくも同じだ。」と思いました。今までぼくはそんなひどいことをして、自分の心にとげをつくってきたのだと思います。「えがおのわ、ひろげていこうわたしから。」

という人権カルタの絵ぶだのように、された子は顔ではわらっているけれど、心の中ではきつと泣いていたのだと思います。

話を聞いた後の道德の時間、そんな心のトゲをぬくために、自分が友だちをきずつけていたことを話しました。ぼくは勇気がなくなかなか言えませんでした。きずつけた相手の気持ちを考えると、相手ももつときずつくと思つたからです。でも、はやくぼくの心の中のトゲをぬかないといけないと思ひ、言い始めました。言っている間、ずっとその子のこと気がなつたけれど、顔を見るのがこわくてそつちを向くことができませんでした。

でも言い終わってから、その子に、

「ごめんな、だいじょうぶやった。」

とききました。その子は、「うん。」とつなずきました。少しずつ仲よくなれそうです。



ふわふわの心でいるために…

(小学五年生)

ぼくは三年生ぐらいの時に、心がとげとげでした。「あほ」「や」「ほか」という悪口を友だちに言っていました。

なぜ悪口を言ったかというと、友だちがぼくにいやな事ばかりしてくるからです。物を取られたり、物をかくされたり、「ほか」などの言葉を言われたりしました。毎日、そういう事がいっぱいあって、いろんな人に悪口を言い続けてしまいました。

とてもつらくて、悲しかったです。泣いてしまったこともあります。どうしたらいいのか分からなくなつて、先生に相談しました。先生はぼくの話当真けんに聞いてくれました。そして、先生はみんなに注意してくれました。

先生が注意してから、いやな事が減りました。ぼくのことを考えてくれる人もいましたが、まだいじめてくる人もいました。ぼくはがまんできなくて、

「ほか。あほ。」

と言っていました。しかし、ぼくをいじめてくる友だちと同じように、悪口を言っているもいいのかなあと思うようになりました。「ほか」「あほ」と言っても、全然すつきりしないし、悪口を言ってしまった後で、「言わなければよかった。」と後かいていたからです。

友だちに悪口で言い返しても、問題は解決しないことに気づきました。悪口を言つのではない、ぼくのいやな気持ちを伝えてみよう

と思いました。はじめは言えなくて、じつとがまんしていた時もありました。でも、このままではだめだと思って、勇気を出して、「そんなことじゃない」と。

と言いました。すると、少しずついじめめる人が減ってきました。いじめがなくなるまで、言い続けました。

いじめがなくなつて、ぼくの心はとげとげから、ふわふわに変わりました。いやな事があると、心はとげとげになつてしまいます。五年生になつて、いじめだけでなく、差別や戦争も心がとげとげになると、藤原先生に教えてもらいました。

また、藤原先生は「人がつながり合うために言葉が大切だ。」と話してくれました。「言葉は薬にもなるし、武器にもなる。」という話を聞いて、ぼくは友だちに言葉の武器を使っていたなと思いました。どんなにつらいことがあつても、人をきずつける言葉を使わないようにしたいと思いました。

ぼくがいじめられている時に、「大丈夫?。」と声をかけてくれた友だちがいました。その時はとてもうれしくて、心がふわふわになりました。この「大丈夫」という言葉は薬になる言葉だと思います。

ぼくは困っている友だちがいたら、声をかけられる人になりたいです。ぼくの一言が友だちの心を救える薬になると知っているからです。みんながふわふわの心でいられるように、言葉を大切に使うていきたいです。



ぼく達にできること

(小学五年生)

ぼくは、学校に行くのを毎日楽しみにしています。朝は目覚まし時計を鳴らして起きて朝ごはんを食べて学校に行きます。ぼくは学校へ行ってもずっと楽しい気分です。授業も楽しく受けられるしぼくはぼくに生まれてきて良かったです。休み時間は友達と外に遊びに行きそうじの時間は友達と楽しくして…。ぼくは生きるということがすごく楽しいです。

またお父さんとお母さんと仲が悪いわけでもありません。おじいちゃんもおばあちゃんもぼくに優しく、おばあちゃんの家に行く月曜日は毎週楽しみにしています。

一つだけさびしいことは、お父さんの仕事が多く朝はぼくが起きるまでに家を出て、夜はぼくがねてから家に帰って来ます。だから、ぼくがお父さんに会えることはあまりないです。休日の月曜日がぼくの心の救いです。

ぼくはこうして周りの人のささえがあつて周りの人に温かく見守ってもらつて毎日进行すごく幸せなものにできていると思います。

お母さんは、だんどりが良すぎていつも先の事まで考えていて、口うるさい時もあるけど、いつもぼくに関心をもつてくれていてとてもおもしろいです。おじいちゃんやおばあちゃんは、月曜日に家へ行くたびに、

「学校で今なんのこと習ってるんや。水泳どうや。」
と、ものすごく関心を持って質問してくれます。ぼくは質問にうれ

しい気持ちで答えています。お父さんは、あまり会うことはないけど、ぼくが水泳の大会に行っている時やぼくが病気で家でよこになつている時はいつもお母さんの電話に、

「俊病院どうやった。俊元気にしているか。夜何か買つて帰るか。」と、ものすごくぼくを心配してくれます。

ぼく達は今年五年生になつて人権の学習を始めました。人権の学習の中には、今まであまり聞いたことのない差別や部落差別のことに中心に学習しています。社会見学でも部落解放運動にとりくんである、渡邊実さんにお話を聞きました。ぼくは渡邊実さんに会つて部落ということを深く知りました。ぼくは、

「わたしは部落でした。」

そう自分から語つてくれる渡邊さんが最後に話してくれた、

「かわいそうな人はおらん。『あの人かわいそうやな』そう差別している人が悪いんだよ。」

と、という言葉がぼくにはものすごくいしうげきでした。

渡邊さんは太鼓のこともよく知つていて、太鼓がいつからあるか、太鼓がどのくらいの間もつか、太鼓は牛の命をもらつて作つている、そついうこともくわしく教えてくれました。太鼓を作っている人が差別を受けたり、食肉の仕事をしている人が差別を受けたりということ話をしてくれました。その人がいるから太鼓がたたけ、お肉が食べられるのに…。これはおかしいと思いました。

ぼくはまだ習い始めたばかりだけど自分にも何かできることはないかな、と考えました。すると一つだけ見つけました。ぼくが周りのみんなに関心を持ってもらつているように、解放運動や周りの

みんなのことに興味を持つことが今のぼく達にできる解放運動だと思います。

「ぼくらには関係ない。」

とか、

「差別なんかなくならんよ。」

などという無関心な態度を変えてまず真剣に話を聞こうと思うことが大事だと思います。一生けんめいに話をしているのに関心を全然持たず話を全く聞いてくれなかったらすごくいやな気持ちになるからです。

学校でも友達が困っている時などに、すぐに気がつけるように、友達を大切にして、行動をします。まず、人の話をしっかり聞いて関心を持つことから始めて行きたいと思います。



まほうの言葉

(小学五年生)

わたしが以前休み時間に、友だちと話をしていたときの事です。
「何、話してるの。」

と聞いてきた女の子がいました。私とその子も一緒に話をしようと思ったら、一緒にいたある女の子が、

「関係ないから入ってこないで。」

と、きつく言って、その女の子をおいはらおうとしました。他の女の子はびっくりして、止めようとしたけど、言われた女の子は、とても悲しそうに、

「わかった。」

と言って行ってしまいました。今になって思えば、その時に、

「気にしないで、一緒に話そう。」

って、その女の子に言えばよかったと、こうかいました。そうすれば、その女の子は、悲しまずにすんで、色々話が出来たかもしれません。でもその子はもしかしたら、みんなが止めても、入らなかつたかもしれない。なぜかというところ、「関係ない。」と言われたらほとんどの人はショックを受けて、「自分が入ってはいけない。」と思つて、遠りよするかもしれないからです。だから、友だちにきつく言葉を言つと、取り返しのつかないことになるということばかりでした。

なので、友だちにそんな人がきつく言葉を言つ前に、その言葉は自分が言われてきづつかないかを考えてから、言った方がいいと

思います。もしも、友だちがきづつく言葉を言つてしまつたり、どうすることも出来なかつたりしたら、あやまらないといけないと思います。

でも、ただあやまるだけじゃなくて、本当に悪かつたという気持ちをもち、心からあやまるべきだと思います。そうすれば、自分の心もすつきりするし、相手にもその気持ちが伝わつて、また仲よく、一緒に遊べると思います。なので、私はその子にあやまりました。あやまつたら、心の中のもやもやする気持ちが消えて、すっきりしました。しかも、その子は、

「ありがとう。」

と言つてくれました。でもなんでだろうと思ひ聞いたら、

「あやまつてくれたから、とっても嬉しい。」

なんて、言葉をくれました。嬉しい、と言つてくれると思つてなかつたので、とてもびっくりしました。

その時に気づいたことが、「ありがとう」という言葉はとても心がいやされるということ、そして、「ごめんね」という言葉は、心がすつきりすることです。

この、「ありがとう」という言葉と、「ごめんね」という言葉は、まほうの言葉なんだとわかりました。なので、これからも、まほうの言葉をどんどん使つていきたいと思ひます。



嬉しかったあの日あの時あのしゅん間

(小学六年生)

あの時の頭の中は混乱中。どうしようかと不安な気持ちでいっぱい。「なんて言われるだろう」「あの時自分がつまずかなかつたら」ということばかり考えてしまう。

あの時とは運動会の日。リレの競技で、バトンを私にくれた人の足につまづいてしまった。最初ボーツとして、何が起こったかわからない状態。今思うとその自分に「早く起き上がって」と言いたい。でもその時、そんなことは思わなかった。他の組が追いついた時、初めて自分は転んだと気づいた。でもその後すぐに立ち、また走り始めた。足も手もすりむきとても痛かった。しかし、そのことは頭のすみに置き、真つ先に思い浮かんだのは、同じ組の子。私が転んで4位になってしまったら、同じ組の子は「こんなやつと同じ組になんかならなきゃ良かった」という気持ちになってしまうのかな。

気分はもう最悪。せつかく2位になっていたのに、私が転んだせいで本当に4位になってしまった。次の子がいてその子にバトンをわたす時、いつもなら「やっと走り終えた」とものすごく達成感を味わうのに今回はいつもと違った。バトンをわたす時半分涙目になっていて、ちっとも達成感などなかった。嬉しくもない。みんながいるところに行っても合わせる顔がなかった。でも、みんながいるところに行った。ゆっくりと。罪悪感でいっぱいになっていただけで行った。

すると、予想外。びっくりした。同じ組の子も、違う組の子も「大丈夫？」「どこけがしたん？」とみんな心配してくれていた。目頭が熱くなった。さっきまで、悔しさと不安な気持ちで涙が出そうだったのに、今は嬉しさで涙が出そうになった。「みんなありがとう」「友達つてすごく温かい」「いてくれて良かった」と心底思った。そして、一人ずつみんなに「ありがとう」と何回も言った。

リレが終わった。今は誰も責めてはきていないけれど、退場の後何か言われるのではないかと、冷や冷やした。でも、誰も責めてこなくて、赤組全員が集まった時も「大丈夫だった？」「痛い？」と心配ばかりしてくれた。でも「優勝できなかったのは、私のせいなんだ」と心の中のどこかにあつたけれど、嬉しくていつの間にか心の中から消え去っていた。それはみんながいっぱい心配してくれて、みんなが温かかったからだと思う。私のような立場に誰がなくても、きつと嬉しいと思う。だから私は、してもらえばかりでなく、嬉しいことをだれにでもしていきたいと思う。

ふだん今回のような立場にあまりなかったことがなかった。でも、もしふだんの生活で不安な気持ちになっている人がいたら、今回のことを思い出し、温かい気持ちを持って声をかけていきたい。そしてもつとみんなとつながっていきたい。そうすれば、きつとつらいことも乗りこえられ、私もみんなも笑顔で生活できるから。

人権について訴えたいこと

(中学三年生)

私は、社会の授業や小学校の学習で基本的な人権について教わりました。人権には人種、部落差別に関する平等権や自由権、労働や教育を受ける権利に関する社会権、選挙に関する参政権などがあります。人権という言葉は今までの私にとっては深く理解できず、本や教科書、テレビの中だけの言葉で、自分にはあまり関係のないものだと思っていました。しかし、人権というものを理解するにつれ、私の生活やこれからの生活に深く関わり、そしてとても身近なものである事に気付きました。夏休みに入り、家族や友達、親戚の人とたくさんのお店や公共施設へ行く機会がありました。その中で私が、二十一世紀に生きる私達のこれからの社会は本当にこのままでいいのか、こんな世の中で一人一人の生きる権利を尊重していく事ができるのかと感じた事を書いていこうと思います。

ある日、私は家族とスーパーへ買い物に行きました。そのスーパーには自転車やバイクがたくさんおいてありました。よく見るとそれらは、点字ブロックの上に停められていて目の不自由な方の歩くための道を、遮っていました。私はそれを見た時、もし自分が目の不自由な人で点字ブロックの上にたくさん自転車がバイクが停

められていたら、きっと悲しい気持ちと、怒りが込み上げてくるだろうと思いました。それと同時に自転車やバイクをとめた人に、なぜ自分の事しか考えられなかったのか聞きたくなりました。そして私も点字ブロックの必要性を口頃ほとんど気にしていなかった事を恥ずかしく思いました。この自転車の駐車問題は今までの私だったら「マナー違反」すなわち迷惑行為という視点だけで考えていたでしょう。しかし「人権」というものを知った今では、この事は障がい者の方が、自由に安全に生活する権利を邪魔していると考えられるようになりました。私は、もう一つ書かなければならない問題に出会いました。お母さんと二人で大阪へ行った時、駅の駐車場へ車を停めに行きました。その駐車場には、身体障がい者用駐車場が設けられていて、そこを平気な顔をして利用している健常者を目にしました。私は、その時痛そうな足を引きずって歩いてくる高齢者を見つけました。心の中では、健常者に注意しなければならぬと分かっていたのに私は、ただ立って見ている事しか出来ませんでした。身体障がい者用駐車場は、お店に至近距離で便利だし、混雑時や雨天時に停めたくなるのはよく分かります。しかし、健常者のせいで車イスに乗らなくてはならない方や足の不自由な方が遠くに停めなくてはならない。こんな悲しい現状を作っている健常者に、私が注意を出来ていれば、次に来た障がい者は辛い思いをしな

くて済んだ。そう思うと今本当に後悔しています。見ていたのに注
意できなかった私こそが、差別やいじめをしている人と言えるかも
しれません。基本的人権とは、自由に人間らしく生きる事を保障す
るという事です。障がい者も、たとえ目が不自由な人であっても健
常者と同じように自由に安全に行きたい場所に行く権利がありま
す。「一台だけなら停めても大丈夫だろう」、「面倒だから」という
無責任な考えが積み重なり、点字ブロックや駐車場を頼りに歩く人
達に、そして障がい者や高齢者に「不自由」を与えてしまう事に気
付かないでいるのです。つまり、障がい者や高齢者に対して配慮し
ない行動であり、ただの「マナー違反」だけでなく、人権侵害してい
る事になります。また、身体の不自由な方や高齢者を助ける事は、単
なる親切心ではなく、人権を守るための行為なのだと思います。私
は基本的人権とは、社会の中で生きていく上で、とても大切な「ル
ル」のようだと思います。すべての人々の人権を尊重し、保護できる
ように社会全体がもっと人権に関心を持ち、深く理解する事によつ
て「マナー違反」やいじめ、差別の問題を解決できると思います。そう
すれば、将来すべての人々が安心して、生活する事の出来る過ごしや
すい社会になっていくと思います。そして私は、このような過ごし
やすい社会にするために、自分の行動や発言、態度が相手を悲しま
せ人権を侵害していないか考え、いつも相手の気持ちになり一歩先

を見られるようにしていこうと思います。また、自分の意見やだめ
だと思っている事を相手に伝える勇気のある人になり、一人でも多
くの人が人権について考え、理解し皆の人権を尊重していけば誰も
が安心して、自由に生活が出来る過ごしややすい社会になるのではな
いかなと思います。



差別と思いやり

(中学三年生)

「いじめはあかんよ。」小学校の時から言われるこの言葉。小学生の私にはなんの意味も持ちませんでした。なぜならば、「いじめ」が無かったからです。だけど、中学生になった私はこの言葉の重みと意味を自ら実感することになりました。周りから見れば、「その位。」だと思えます。だけど、私にとってはとても辛く、悔しい思い出となりました。部落差別問題、障がい者差別問題、女性差別問題など世の中には様々な「差別」があります。その「差別」が起こる原因は何なのか。小学生の私だったら絶対に分からない質問です。けれど、中学生の私だったら答えのカケラ位なら分かると思います。「いじめ」の原因を知っているからです。

私の場合の原因は、部活でのポジション争いでした。入部したばかりのころは、みんな初心者ということもあり、さほど差もなく仲良く練習していました。しかし、部活内で方向性の違いによる口論が起こり、一人が部活を去りました。そして、部活の同学年の中でいくつかのグループができました。私はどのグループにも属しませんでした。今思えばそれが引き金になったんだと思います。三年生の先輩達が引退すると、私は先生からポジションをもらいました。

二年生の先輩達と一緒に試合をしてとても楽しかったし、とても嬉しかったです。だけど、その日を限りに楽しかった部活が辛いものと変わりました。ペアを組んでいた人が違うところへ行き、ボールがまわってこなくなり、無視されたこともありました。日々がとても苦しくて部活に行く日も週三日位だったと思います。一年生の秋に私は部活を辞めました。部活を辞めて開放されたと思う自分もいました。けれど、逃げてしまったと自分を恥ずかしく思いました。部活を辞めてから知ったことがありました。それは部活が同じだった人が教えてくれたことで、「うらやましくて、自分らが遅れてると思った。」とみんなが話していたと私に教えてくれました。私はそれを聞いて先輩と試合に出ることに浮かれて出られない人がいることを忘れていたんだと思いました。だから、私はその人達を恨んではいません。私にも原因があったし、相手側にもおかしき点があったからです。小さな劣等感やちょっとした優越感から間違った行動をすると、「いじめ」になるんだと私は学びました。決して誇れるわけでもない私にとっては辛い過去ですが、過去の心となので忘れるのはできないと思います。が、未来の為にそっこと心の中にしまっておきたいと思います。

「いじめ」についての過去を人に話すのは私としてはしんどく思っていました。理由は、話してもわかってくれるわけがないと思っ

ていたからです。だけど、私の今の考えは違います。相談や話を人に聞いてもらうことは大切なのです。私は人に話を聞いてもらって、助けられたから言えることです。

部活を辞めてから特にすることもなく生活していた私に「一緒に部活せえへん？」と声をかけてくれた人がいました。最初は、「興味ないから。」って理由をつけて断っていました。私の本心は、「いじめられるのが怖い。」っていうのがあって、話を聞けませんでした。ただある日、「何で部活せえへんの？」と言われました。私はその人に前の部活を辞めた理由を話して、最後に「根性ないから。」と付け加えました。私みたいな人間は必要ないだろうとあきらめてもらう為に言いました。それで終わりかと思っていたらその人は、「よく頑張った。」と一言だけ言いました。責められるか、引かれるかと思っていた私にとつて予想外の一言でした。それからも、その人は私を誘ってくれたので、私は部活に入りました。そこでは、とても充実して部活をしています。

人に話してみると新しい道が開けるかもしれないことを学びました。これは、「いじめ」を体験したことから学べたことだと思えます。ふさぎこみがちだった私はその人のおかげで自分を取り戻すことができたので本当に感謝しています。

一番初めに提示した「差別の原因とは？」という質問の答えは

「人」だと私は思います。人が「差別」の原因という理由は「いじめ」と同じ様に優越感や劣等感が「差別」につながるからです。そして、その感情を人は持っているのです。だからといって、感情を押し固めることはできないので「差別」を無くす為には、本当に基本的なことですが、「他人を思いやる心」が大切だと私は思います。基本的なことですが、これをできない人がいるから「差別」が無くならないのです。そして、辛い思いをする人がでてくるのです。出来れば周りの人に私と同じような思いをしてほしくありません。そこで、私はこれから先にかかわっていくすべての人に対して「思いやり的心」を持てるようにしたいです。世の中から「差別」が無くなくなりますように。



みんな笑顔

(高校三年生)

“君がいるから 俺は笑う” 遊助のシングルの『ひまわりという曲を聴いていると、(そっだな…) って思うんだ。

君ということは友達や家族と思ってるんだ。私は施設に住んでいるから、職員さんも友達もみんな家族だと思ってるんだけどね。

私に通っているつばさ学園では、一げん目の朝の会で昨日のできごとを発表したり、二げん目の課題という授業では、社会に出て役に立つような一般常識や身のまわりの家事の勉強もしている。三、四げん目の作業という授業では、高等部の一年生から三年生までが、七つの作業班に分かれて作業している。

今から作業班でなにをしているのか紹介したい。

私の所属しているとかち班では電動系ノコギリを使って木の文字をていねいに切ってネームプレートを作ったり、チューリップやカエルの形を切ってメモスタンドを作ったりしている。あと、木と木をつなげて四角いコ「スタ」を作ったりもしている。障害が重い人だって、木をていねいにみがくんだ。

ほかに、やきもの班、こつとん班、エコ班、パソコン班、ファムクラフト班、コスモス班があり、みんなそれぞれの場所でがんばっている。

ばっている。

つばさ学園の高等部を卒業した人は、みんな別々に別れて、ブリヂストンという、車の部品を作っている会社に就職したり、それ以外の会社にも就職したり、あと、作業所という所で就職したりしている。

みんなすごいんだよ。みんなちがってみないんだ。

私の夢は介護士。そんな私がある日、いけないことをしたんだ。私の施設にMちゃんという子がいるんだ。私は友達と二人でその子の前で「Mってキモイ」「M死ねよ！」と言ったんだ。そしたらMちゃんはキズついた。あたり前だよ。こんなこと…。そんな私が情けないよ。介護士になろうとしている私がMちゃんの障害が重いからって「M死ねよ」って言うなんて…。

実は私はこのつばさ学園に来る前、障害者じゃなく健常者だったんだ。それで健常者のいる学校へ通っていて、イジメられた。目の前で暴言を言われたんだ。Mちゃんにしたようにされたんだ。それで不登校になって暴れてから病院で治療して、このつばさ学園に来たんだ。

Mちゃんゴメンネ。今からもつ悪口を言わないようにしているんだ。

だから健常者も障害者もかんけいなく差別やイジメなくそつよ。

だからって差別やイジメがかんたんになくなるわけがない！障害の重い人たちは重度だからって、差別やイジメをされるの？そんなのおかしいよ。私はそう思う。みんな心の中で泣いているんだよ。みんな差別してにやけるのではなくて、自然な笑顔を見せたいのじゃないのかな？

遊助に「ひまわり」という曲がある。その曲に次のような歌詞がある。

青い空と雲 太陽つかまえんぞ 君がいるから俺は笑う

悲しいお別れも 最高の出会いも

ココに生まれた奇跡 LALA ありがとう

光るおひさま キラキラ波打ち際 青い海と空 いつも同じさ

背のびはしないさ 自分らしくないから

素直に笑っていたいだけなんだ

私は思う、「このひまわり」という曲のように君がいるから俺は笑う」だよって。みんなの笑顔が「ひまわり」なんだ。

私は障害の子たちと笑っている。おもしろいことを言ったり、手と手でタツチすると笑ってくれるんだ。

人間に笑顔のない人なんていないんだ。「君がいるからこそ私たちは笑う」そうなんだよ

みんな人間。みんな一緒。泣いたり怒ったり笑ったり。人間だから

からこそ感情があるんだ。

障害があるからって人間じゃないわけじゃない。みんな同じ人間なんだ。

「背のびはしないさ 自分らしくないから」のように差別やイジメをされている人よりもイバるのではなくて「素直に笑っていたいだけなんだ」のように差別やイジメをしないで素直に笑って生きていけば、それでいい。

「死ぬ」なんていう言葉は絶対につかっではいけない！その人が本当に死んでしまったら、笑顔が消える。差別やイジメも絶対にしてはいけない。その人を苦しめることになるから。

私の夢は介護士。だからこそ守ってみせる。差別やイジメしないって。健常者も障害者も同じ人間。みんなのひまわりが咲くように

みんな笑顔。それが一番。



標語

〈小学生の部〉

- ありがとうはみんながうれしい まほうの言葉 (五年生)
- 心まで 笑顔の花を 満開に (五年生)
- みんなそれぞれちがうけど 人の権利はみな同じ (五年生)
- いじめるな 自分も心が きずつくよ (五年生)
- 咲かせよう 笑顔の花で いっぱいに (五年生)
- 「大丈夫？」 その一言で 救われる (六年生)
- 手をつなごう 心と心が つながるように (六年生)
- 「だいじょうぶ？」 小さな勇気が 大きな光 (六年生)
- 見てる人 そんなあなたも関係者 (六年生)
- 考えようよ 自分にされて イヤなこと (六年生)

〈中学生の部〉

- 見ないふり それも差別をしている側 (一年生)
- 「ありがとう」 笑顔が広がる 魔法の言葉 (二年生)
- ふみだそう 言える勇気と 止める勇気 (二年生)
- 『見てるだけ』 そんなあなたでよかったの？ (三年生)
- 考えよう 言葉の重み 相手の気持ち (三年生)

〈高校生の部〉

- 見て見ぬふりその時あなたは 加害者です (一年生)
- 笑顔でつなごう心と心 心でつなごう人と人 (一年生)
- 気付いてる？ あなたのまわりの SOS (一年生)



タイトル：ピース

コメント：留学することで出会えた私たちの一期一会な絆と、最高の2週間をありがとう。



タイトル：溢れる笑顔

コメント：私の周りに溢れる笑顔を撮りました。どんな時も、周りに笑顔があると心を強く持つことができると思います。



タイトル：守るべきもの

コメント：親が子の手を包んでいるシーンです。この写真を通して、自分が守るべきものを見つけてもらったら幸いです。



人権作品集

2011年2月発行

名 張 市

名張市教育委員会

この冊子は再生紙を使用しています。